

(第3種郵便物認可)

赤ちゃんの観察法学ぶ

刈谷でNPO職員ら向け講習

赤ちゃんの特性を把握して子育てに生かす「新生児行動観察」(通称・エヌボ)への理解を深める講習



NPO職員らにアドバイスする斎藤教授(右から2人目) 刈谷市保健センターで

が二十八日、刈谷市保健センターであった。市から委託を受けてエヌボを事業展開する地元のNPO法人「スコップ」の職員らが、研究者から助言を受けた。

エヌボは、生後三カ月までの赤ちゃんを対象に、顔に光を当てたり、マラカスを振って音を聞かせたりし、どのような刺激に敏感に反応するかなどを探る。把握した特性を意識して接することで育児の負担が和らぎ、特性に合った対応をしてもらえる赤ちゃんのストレスも軽減するとされる。

市は、同NPOに委託し、子育て経験のある女性が家庭を訪問して悩みを聞く「育児ママ訪問サポート事業」に本年度、エヌボを導入。公的支援として自治体が実施するのは全国初と

茶山 阿比塔安城製元
グエルサウチク百尾

講習には、エヌボを研究する日本赤十字看護大の斎藤英子教授と名古屋大の永

田雅子教授が参加した。NPOの職員が「苦勞して寝かしつけた赤ちゃんの場合、光を当てて目を覚まさせてしまったらいいのかと悩む」などと吐露。二人は「目覚めるまで刺激への反

応が分かる」と促す一方で、赤ちゃんを起こすことに親が困惑するケースも考えられ、「状況をみて判断して」ともアドバイスをした。

(諏訪慧)